

## お寺にある本のいろいろ

早稲田大学文学学術院講師 門屋 温

お寺にはその用途や目的の異なる様々なタイプの本や資料が残っています。そのためお寺の本を調査するには書誌学的な知識だけでなく、その内容や使われ方についての幅広い知識が必要となります。

### ①経典

仏教の経典です。真言宗であれば「大日経」、浄土宗であれば「阿彌陀経」というように宗派によって重視する経典が異なります。卷子本や折本であることが多いです。『大般若経』のようにちょっと特殊な使い方をする経典もあります。

### ②経典の注釈書

経典について詳しい注釈や解説を施した本です。僧侶が経典について勉強する時に用いた、いわば参考書にあたります。定番のものが多く、袋綴じの版本の場合が多いです。

### ③学習書

僧侶が教理を勉強する時に用いた経典の抜き書きや本山で受けた講義録など、いわばノートにあたります。袋綴じや列帖装のものが多くあります。

### ④行法書

密教では仏菩薩や天部の神様を本尊として様々な祈禱を行います。「観音法」や「不動法」というように本尊によって目的や機能が異なります。それぞれの法によって唱える呪文（真言）や結ぶ印も異なり、所作や手順にも細かい違いがあります。そうした行法のマニュアルを書いた本です。行法は師匠にあたる僧侶から授かるのが基本で、勝手にやることはできません。そのため師匠の本を写させてもらうか、譲り受けることとなります。「舁形本」と呼ばれる正方形の粘葉装や折紙のものが多くあります。

### ⑤外典

仏教以外の本を「外典」と呼びます。僧侶たちは文章を読んだり書いたりするために「四書五経」（儒教の経典）や漢詩の本を読んで勉強しました。そのためお寺には意外に多くの漢籍が残されています。ほとんどが袋綴じの版本です。

### ⑥伝授の証明

密教の修行を終えると「伝法灌頂」という儀式を経て、正式な僧侶として認められます。その際、卒業証書と免許状にあたるような書状を師匠から授かります。また師匠から行法を授かった場合も「印信」と呼ぶ証明書ももらいます。ほとんどの場合は折紙です。

信州 知の連携フォーラム（第3回）ワークショップその①

「寺社のMLAを体験する～地域の文化資産を見て・知って・整理して・発信する～」2日目参考資料